

桜蔭俳話会

第一一六回通信句会 選句結果

平成二十七年冬。選句数は五句、うち特選一句。

(○内の数字は、特選句数で選句の句の内数です)

- 2点②稜線も家並も切絵ふゆ茜 弘子
- 2点 それらしき盆に横たる雪うさぎ 邦子
- 1点 竜の玉今日は私の休息日 ヤエ子
- 2点 元日も昨日と同じランニング 眞壽
- 1点 自分史の揺るがぬ虚実はなひひらぎ 才美
- 1点 寒朝の進みのはやき時計かな 秀一
- 4点①図書館の背中合せの冬の椅子 梅乃
- 5点②千両や生きる証しの赤き色 のりとし
- 着増なりまずは一着今朝の冬 眞三
- 1点 地下深くマグマ抱へて山眠る 明美
- 7点②田一枚荒れ野へ返へし根雪かな 守
- 2点 花の種袋を振つて寒見舞ひ ツル子
- 霜柱荒れるイスラム震える日 直子
- 2点 万象の音の遠のくや寒の雨 安紀子
- 1点 初景色見馴れし富士も白さ増す 忠夫
- 4点①筆ペンの穂先軽やか初日記 幸
- 3点 縄跳びの波へ飛び込むいちにのさん 友子
- 1点 初詣伊勢と決めたり旅支度 幸枝
- 1点 冬晴れや街道正面富士の山 のり子
- 充電中と夫ごろごろ冬籠 幸子
- 4点②時を待つ数多のワイン山眠る 安紀子
- 2点 拝復と始むる葉書福寿草 秀一
- 3点 子に着せる母の着物や初茶の湯 幸子
- 成功のコンサート後に野毛小路 直子
- 1点 冬の真青に開く「漂流記」 才美
- 2点 氏神の列に加はる年初め ツル子
- 2点①席譲るピアスの少年懐手 梅乃
- 4点 冬空や木霊秘めたる太き幹 幸枝
- 1点①福寿草大鉢に咲くまづ一輪 忠夫
- 冬の雲はるか夕焼支へいる 眞三
- 今日もまた茶の間賑わうおでん鍋 邦子
- 6点①日々些事を重ねゆくなり初日記 友子
- 1点 月明り吹雪が痛い露天風呂 眞壽
- お手玉の童歌はずむ小正月 幸
- 1点 口紅の見本数かず春隣 弘子
- 6点①故郷を出でし長さや四角餅 のり子
- 3点①大枯野入れ替え線の転轍機 守
- 3点 軽やかな鳩のついでみ凍てし土 ヤエ子
- 3点①寒気満つ部屋に鳴りぬしオルゴール 明美
- 三ツ星や静寂を抜けて海に入る のりとし
- 3点①生き急ぐ思ひもちらり春近し 眞三
- 2点 正論にさはさりながら炬燵猫 才美
- 2点①雪晴るる窓辺眩しや友を待つ 邦子
- 1点①日脚伸ぶ正確すぎる掛時計 弘子
- 3点②音たてて水飲む猫や竜の玉 秀一
- 5点 海山のひといろとなり時雨来る のり子
- 3点 牡蠣船の列くづさずに海眠る 幸枝
- 3点 自分史の欠落一つ氷面鏡 守
- 2点 今日だけは無言の夕餉恵方巻 眞壽
- 2点 日脚伸ぶ古き屋敷の鬼瓦 幸子
- 1点①初日の出大樹の樺木かけ昇ぼり ツル子
- 大冷えの木伐られし跡猫の行く ヤエ子
- 4点①成人式出世するぞの顔並ぶ 幸
- 2点①「はやぶさ」を探せる冬の銀河かな 明美
- 雪の朝水しぶき避け遅刻なり 直子
- 1点 手枕にしびれて醒めし置炬燵 梅乃
- 5点 ハモリつつ帰る少女ら春隣 友子
- 3点 除夜の音のひとつ残りし簞道 のりとし
- 誕生日七草粥で寿がれ 忠夫
- 6点②求職の絵馬ひるがへす寒の風 安紀子
- 三月句会
- ・三月二十九日(日)午後一時
- ・旭区民文化センター・サンハート
- 四月句会
- ・四月二十六日(日)午後一時
- ・旭区民文化センター・サンハート
- 五月句会
- ・五月三十一日(日) 吟行予定

【事務局からお知らせ】